

国語部会事後検討会 議事録

日時：令和8年7月10日

内容：授業研究会事後検討会（国語科「川とノリオ」）

1 授業者より

(1) 単元の概要

- 「川とノリオ」において、昨年度は補助的であった朗読活動を、本年度は単元を中心に位置付けて実践した。 ____
- 戦争という題材の理解を深めるために、
 - 被爆者体験講話の実施
 - 戦争児童文学の紹介
 - 関連図書の設置
 - 調べ学習 を行った。 ____

(2) 授業者の課題意識

- 表現技法の理解と朗読表現を関連付ける指導が難しかった。 ____
 - 子ども同士の交流が固定化し、考えの広がりや深まりにつながりにくい実態がある。 ____
 - 朗読活動进行评估する際、
 - 朗読技能
 - 心情や情景の読み取り のどちらを重視すべきか悩んだ。 ____
-

2 参観者からの意見

(1) 朗読活動について

- 子どもたちは付箋に多くのコメントを書いていたが、実際に声に出して聞き合う交流を増やすことで、より考えが深まるのではないか。 ____
- 読み取りはできていても、朗読として表現することが苦手な児童が見られた。 ____
- 「なぜその読み方を選んだのか」を説明し合う活動が必要である。 ____

(2) 交流活動について

- 子ども同士が朗読を聞き合いながら助言し合う場面は有効だった。 ____
- 対話を中心にした交流を増やすことで、読みの根拠が明確になるのではないか。 ____

(3) ICT 活用について

- 自分の朗読を録音し聞き返す活動は有効であった。 ____
 - 教師が録音に対して個別コメントを返したことは、学習の振り返りに役立っていた。 ____
 - 音声共有や相互評価の仕組みがあると、さらに学びが深まる可能性がある。 ____
-

3 講師指導・助言

(1) 朗読と国語科の学習について

- 子どもは「上手に読みたい」という意識を持ちやすいが、国語科として重視すべきは「作品をどう解釈したか」である。 ____
- 本単元の中心は「精査・解釈」であり、朗読はその解釈を表現するための手段として位置付けるべきである。 ____

(2) 評価について

- 朗読の巧拙ではなく、
 - 心情や情景をどのように捉えたか
 - なぜそのような読み方をしたのか を評価することが重要である。 ____
- 本文への書き込みや脚本化によって解釈の過程を可視化すると評価しやすい。 ____

(3) 戦争児童文学の学習について

- 戦争児童文学は、一つの家族や個人に焦点を当てながら戦争の悲惨さを伝える文学である。 ____
- 「川とノリオ」では、色彩表現や暗喩、繰り返し表現などを通して戦争の悲惨さが描かれている。 ____
- 作者がなぜその表現を用いたのかを考えることが、読みを深めることにつながる。

(4) 学習指導要領改訂を見据えて

- 次期学習指導要領では「深い学びの実装」が重視される。 ____
- 子ども自身が学習状況を把握し、次に何を学ぶべきかを考える「学習の自己調整」が必要である。 ____
- ICT は単なる道具ではなく、学びを深めるために活用することが求められる。 ____

4 今後に向けた提案

1. 「どう読むか」よりも「なぜそのように読むのか」を交流の中心に据える。 ____
2. 録音した朗読を共有し、互いに聞き合う機会を増やす。 ____
3. 学習過程や思考過程をデジタル上に蓄積し、次年度以降へ活用できるようにする。
4. グループの固定化を防ぎ、多様な相手と学び合える環境づくりを進める。 ____
5. 読書活動へつながる単元構成を意識し、戦争児童文学への関心を広げる。 ____

5 まとめ

本実践は、朗読を通して作品理解を深めようとする意欲的な授業であり、ICT 活用も効果的に行われていた。今後は朗読技能そのものではなく、表現技法や叙述から読み取った内容を根拠として説明し、自らの解釈を表現できる児童の育成を目指すことが重要であると
の共通理解が得られた。